

花き フェスタ!

Tsuchiura

見ているだけで私たちの心を和ませ
てくれる花。

皆さんは、私たちの住む土浦市で、
たくさんの花き生産が行われているこ
とをご存知ですか。

今号では、本市が誇る主な花きに焦
点をあて、JA土浦花き部会の生産者
の方から協力をいただき、その魅力を
紹介する花特集をお届けします。
どうぞお楽しみください。

ヤナギ類 *Salix*



栗原 仁さん
(上坂田)

ヤナギ類の栽培を家族で行っていて、正月の飾りに珍重されるウンリュウヤナギの銀染めなどを手掛けている。



収穫前のサンゴミズキ

一つ一つ心を込めて 丁寧に育てています

30年前、養蚕をやめて親戚がやっていたヤナギを始めたのがきっかけです。現在では、アカメヤナギを中心に、ウンリュウヤナギ(銀染め)、サンゴミズキ、ドラゴンヤナギなど12~13品種のヤナギ類を生産しています。作付面積は5haで、収穫・出荷作業は3~4人で行います。ヤナギは春に挿し木をすると秋ごろには1m50cmまでに生長します。収穫はすべてハサミを使った手作業。7月からの葉をとる作業や病害虫対策が大変ですが、市場に対応できるよう一つ一つ丁寧に手入れをするよう心掛けています。

土浦市では、新治地区を中心にヤナギ類の生産が盛んで、その種類の多さと生産量は全国一といわれています。「ヤナギ類」と一言で言っても、その種類は樹木から枝物まで多品種に及びますが、市内で栽培されているものは、アカメヤナギ、ウンリュウヤナギ、ドラゴンヤナギ、サンゴミズキ、ユキヤナギなどで、主に切り花や生け花などによく使われています。アカメヤナギなど枝物の栽培の始まりは昭和50年で、タバコや養蚕などから転換されました。その後、作付面積がしだいに増加し、ヤナギ類は平成6年に県の「銘柄育成産地」の指定を受けました。現在は約20人の生産者により、35haの作付面積となっていて、年間

約315万本を出荷しています。いずれのヤナギも春に畑に直接挿し木され、ほぼ1年を通して全国の市場に出荷されていますが、銀染めに適したウンリュウヤナギなどは、正月用品に用いられることが多いので、冬はヤナギ類にとって出荷の繁忙期となります。一方ユキヤナギは、土浦・牛久・阿見の3市町にまたがる地域で昭和31年から栽培が始まりました。その後、自動車輸送の普及により昭和40年代にかけて多く栽培されるようになりました。県内では、この地域を中心に栽培されていて、作付面積は5ha、生け花用などに夏場は葉枝を、12月から4月にかけては花枝を出荷しています。



枝がぐねぐねと曲がったウンリュウヤナギ。銀染めされて出荷する。

秋口になると花の包が赤くなるアカメヤナギ

枝いっぱい雪が降り積もったような小花がかわいらしいユキヤナギ

花も葉も、用途多彩な ユキヤナギに魅せられて

昭和35年からユキヤナギの栽培を始め、試行錯誤を重ねた結果、良いユキヤナギを生産できるようになりました。現在は1ha栽培していて、秋から冬にかけては紅葉したユキヤナギの株をビニールハウスに移し換えて育成、花を咲かせて切り花用に出荷しています。ユキヤナギは強く丈夫なため、病害虫対策もほとんど必要なく、あまり手間がかからないのが魅力。また、春には新緑の葉が、秋からは紅葉も美しいので、花だけでなく多くの付加価値を持っているので、1年中楽しめます。



齊藤正勝さん(荒川沖)

ユキヤナギを栽培して47年。市の南部で、主にユキヤナギの栽培を行っている。

グラジオラス

Gladiolus

～プロフィール～

分類：アヤメ科グラジオラス属 多年草
別名：トウショウブ、オランダショウブなど
原産地：アフリカ、地中海沿岸
草丈：90～1 m20cm
開花期：6～11月
花色：赤・黄・白・オレンジなど(300ほどの品種があるといわれる)
花径：5～15cm
花言葉：忘却・勝利・密会・用心など
土浦市の作付面積：21ha（平成18年）
土浦市の出荷数量：500万本（平成18年）



▲ジェシカ

グラジオラスは、真っすぐ天を突くかのように伸びた姿が「剣」のような形をしているため、ラテン語のグラディウス(Gladus)（剣）から名前が付けられました。その剣に華やかな花々を一系列に咲かせる姿は見事です。

土浦市のグラジオラス栽培は、昭和31年に今泉地区で球根が生産されたのがきっかけで、昭和35年から切り花栽培がスタートしました。当時、ほかの作物よりも予想以上の収益を得たことから、生産農家・作付面積がともに増加していき、昭和45年には約20haに作付面積が増えました。全国でも有数の産地となった土浦市は、平成2年に花きでは初めて県の「花き銘柄産地」に指定されました。現在、今泉・小山崎地区を中心に栽培されていて、年間約500

万本を出荷しています。グラジオラスは主に畑で栽培され、5月から11月まで出荷を行っています。春に球根を植え、早いものでは90日前後で出荷できる状態にまで生長します。しかし、連作障害を起こすので、一度使った畑は5～6年休ませます。

県のグラジオラス生産は、球根は全国1位、切り花は鹿児島県に次いで2位です。土浦市は切り花では作付面積、生産量ともに県内1位を誇ります。

県では現在、オリジナル品種の育成を行っていて、上品な薄紫色が美しい「紫峰の朝」、黄色にオレンジのふちどりが可愛い「プリンセスサマイロ」、「淡いオレンジ色で赤のブロッツ（濃い斑模様）が入る「常陸あけぼの」の3品種を生産しています。





萩島一郎さん
(小山崎)

萩島園芸代表。この辺りの土地がグラジオラスの栽培に適していることから、約30年前に先々代が始める。当初は野菜や養蚕なども一緒に行っていたが、15年前から専門的に栽培するようになった。自身は3年前から生産に携わっている。

ほかにはない花付きと豪華さが自慢のグラジオラス

現在は、父親と2人3脚で試行錯誤しながら15品種のグラジオラス栽培を手掛けています。6月ごろからの収穫・出荷作業は家族を含め10数人で行いますが、重量があるため、運搬作業が重労働で苦労することもあります。今年も、降雨量が少なかった影響で害虫が多かったですが、多雨で病気が出やすくなるよりは安心でした。しかし何といっても一番のリスクは台風などによる被害。常に気にかかります。

グラジオラスは真っすぐで高さがあり、豪華な花を咲かせます。消費者の声を大切に、これからもアイデアを取り入れているいろいろな用途で使ってもらえるようにしたいです。



プリンセス
サマーイエロー



◀ソフィー



▲マスカーニ



グラジオラスは、つぼみのまま出荷されます。

家庭で栽培を楽しむための1年の流れ

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	(月)
				植え付け			開花					
					病害虫に注意							
				土の表面が乾いたら水やり								
				日当たり・水はけの良い土壌で								
										使用用途 ・庭 ・花壇 ・鉢植え ・プランター		

表はあくまでも目安です。気候・土壌などにより条件が変わることもあります。





アルストロメリア

Alstroemeria

ユリを小さくしたような色鮮やかな花びらに、斑点模様の筋が特徴のアルストロメリアは、品種が豊富で花持ちが良いこともあり、フラワーアレンジメントや切り花で人気がある花の一つです。その昔、南米に旅行に行ったスウエーデンの植物学者リンネが、アンデス山脈の寒冷地帯に自生する種を採取し、友人の植物学者アルストレルにちなんで名付けられたといわれています。

アルストロメリアが土浦市に初めて導入されたのは、昭和58年。省力栽培が可能な宿根草(多年にわたって生育するが、冬は休眠状態になる)として作付けが急増し、平成3年には12人の生産者により3haにまで面積が拡大。県の「花き銘柄推進産地」の指定を受けました。アルストロメリアは暑さに弱いため、寒冷地である北日本での栽培が盛んで、県内の生産量

は全国では5位ですが、関東では1位です。土浦市のアルストロメリアは、現在、生産者12人、作付面積4.8ha、生産量年間約400万本で、作付面積、生産量ともに県内1位を誇ります。

1株で50本にもなるほど増殖力があるこの花は、ビニールハウスなどの施設の中で栽培されるため、4〜5月に株を植えつければ、9月から翌年の6月にかけて収穫することができます。ただし、夏場は、大半の農家で高温対策のため、地中を冷却させる装置を導入し、周年出荷できるような形態をとっています。

種類については、毎年品種改良された新しいものがオランダから日本に輸入されてきます。作付けが最も多いピンク色に黄色が混じった「レベッカをはじめ、「シモナ」、「デボラ」など国内の生産は約30種類にも及びます。



湯原浩司さん
(粟野町)

JA土浦花き部会長。夫婦で約25年間アルストロメリア栽培を営んでいて、栽培面積は4500㎡。現在は約10品種を取り扱っている。

「色合い・強さ・花持ち」を 良くするための肥料設計が一番大事

もともとはカーネーションなどの栽培をしていましたが、25年ほど前には、より単価の高いアルストロメリアへ転換しました。始めたころは、設備にかかる資金などで苦労したこともありましたが、アルストロメリアという花は生産者を悩ませるような病気や連作障害がほとんどないところが魅力です。

また、草丈は長いもので2m50cmにもなりますが、施設栽培のため台風など天候の影響をあまり受けず、出荷量は1年を通して安定しています。

切り花やテーブル花として使われることの多いアルストロメリアは、お祝いごとが増える10月から3月にかけて需要が増え、出荷作業が比較的忙しくなりますが、色・品質ともに良いものを作り上げるために、日々肥料の配合などに気を配りながら育てています。

～プロフィール～

分類：ユリ科アルストロメリア属 多年草(耐寒性)

別名：百合水仙(ユリズイセン)

原産地：南米インカ地方

草丈：40cm～2m50cm

開花期：4～6月(品種により異なる)

花色：白、黄、桃、紅、紫紅など多彩(50ほどの品種があるといわれる)

花径：4～8cm

花言葉：きゃしゃ、やわらかな気配り、幸い、凛々しさ、人の気持ちを引き立てる、持続、エキゾチック、援助

土浦市の作付面積：4.8ha(平成18年)

土浦市の出荷数量：400万本(平成18年)



家庭で栽培を楽しむための1年の流れ

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	(月)
生育適温 10~20℃ ※品種により異なる			植え付け	開花	休眠			植え替え				
			日光に当てる	休眠中は日陰								
			害虫に注意									
水は週1回程度			土の表面が乾いたら			月1回程度			週1回程度			
水はけの良い土壌で												
使用用途 ・庭 ・花壇 ・鉢植え ・プランター												

表はあくまでも目安です。気候・土壌などにより条件が変わることもあります。

★「土浦市花の展覧会」耳寄り情報★

毎年2月ごろに、土浦市とかずみがうら市の生産者が丹精込めて育てた花の展覧会を開催しています。会場ではこの特集で紹介したヤナギやアルストロメリアも楽しめます。また、出品花の即売会もありますので、皆さんぜひご来場ください。(詳しくは、広報つちうら1月中旬号に掲載します)